

Special Support Education Research Center

SSERC 通信

(第2号 2006年9月)

国立大学法人 筑波大学
 特別支援教育研究センター
 センター長：前川 久男
 〒112-0012 東京都文京区大塚 3-29-1
 TEL:03-3942-6923 / FAX:03-3942-6938
<http://www.human.tsukuba.ac.jp/sserc/>
mail:sserc@human.tsukuba.ac.jp

着任挨拶

「期待と希望を胸に」

藤原 義博

初めまして、9月1日より当センターに着任しました藤原義博です。どうぞ宜しくお願いいたします。生まれも育ちも大阪ですが、大学院は、筑波大学心身障害学研究科です。前任校は新潟上越にある上越教育大学でした。助手から22年にわたって修士課程で現職教員や学卒の院生の養成に努めてまいりました。私の専門は知的障害や情緒障害、発達障害児者の指導法ですが、早期療育をはじめ養護学校や特殊学級での授業や支援体制など、幼児から成人までの教育的支援の在り方について研究及び実践を重ねてまいりました。

現在、これまでの特殊教育から特別支援教育への移行が進み、新しい障害児者教育に対するこれまでにない大きな変革が求められているところです。その中であって当特別支援教育研究センターは、今後の特別支援教育の在り方に対する様々な課題や方向性に対して、全国に向けた提案や情報発信を行わねばならない使命を担っていると考えております。その重みを自覚しつつも、これまでの経験を生かし、期待と希望を持って研鑽に励むつもりであります。どうぞ宜しくお願いいたします。



【報告】

7/14 第3回5部門会議

(5部門会議は筑波大学の附属障害教育5校の支援部担当教員とセンタースタッフで構成されています)

報告・協議事項

国際イニシアティブ実施計画 / 研修パッケージ計画 /

17年度センター的機能・講師派遣実績調査 / 「SSERC 通信」編集企画について

連携研究概要報告

- ・難聴を伴う知的障害幼児の教育支援に関する研究
- ・肢体不自由を伴う知的障害児童の学習支援に関する研究
- ・視覚障害用アセスメント、教材教具等の肢体不自由児童生徒への適用に関する研究

その他

会議終了後、e-ラーニングのデモンストレーションを行いました。

7/26 研究交流セミナー

7月26日(水)、附属小学校講堂において平成18年度研究交流セミナーが開催されました。今回の研究交流セミナーは、「筑波大学附属特別支援学校新生プラン(NEXT50)の実現に向けて」をテーマに行われました。平成18年度に新たに設置された、「附属特別支援学校構想検討委員会」の検討結果を踏まえた基調報告(中村学系長)の後、学外から文部科学省の磯田氏、元中教審委員長の高倉氏をお迎えし、鳥山学校教育局次長、前川特別支援教育研究センター長を交えた4名でのシンポジウムが行われました。

本センターが共催となった研究交流セミナーは今年で第3回目となりました。一昨年の第1回は「特別支援教育研究センターに期待すること」をテーマに本センターの開所式を兼ねた開催、昨年の第2回は「特別支援学校教諭免許状(仮称)への移行における教員養成



・現職教育の課題」をテーマとし、いずれも今後の具体的問題に迫りたいと企画してきました。今回は、企画を構想検討委員会に譲ったため、これまでとはやや趣を異にするセミナーとなりました。学校教育法が一部改正され、来年度から特別支援教育体制が開始されることが決まった現在、状況や情報を整理し、今後の課題を明らかにするという意味で、意義あるセミナーになったと思います。

7 / 31 ~ 8 / 11 免許法認定公開講座

7月31日から8月11日までの12日間、7講座に及び免許法認定公開講座が開催されました。この公開講座は、筑波大学の心身障害学系や附属障害教育5校の教員が講師になり、当センターが中心となって運営しています。期間中は500人以上の受講者が通ってこられましたが、今年も定員を上回る申し込みがあり、何人もの方の受講をお断りすることになりました。とくに「障害児教育の基礎理論」については受講をお断りした数が非常に多いため、昨年に引き続き、受講をお断りした方々を対象に、1月に再度同講座を開講することにしております。なお、6月の学校教育法の一部改正に伴い、来年度からは新しい免許法下で同様に講座を開催する予定であります。

8 / 7 ~ 9 講師派遣型研修会 於：長野県立松本盲学校

本年度の重点課題として、当センターでは講師派遣型現職教員研修システムの開発研究に取り組み始めています。その一環として、8月7日～9日までの間、長野県教育委員会の後援を得て、同県立松本盲学校において、視覚障害児童・生徒を対象とした自立活動（歩行）指導者研修会を実施しました。

この研修会には、附属盲学校の自立活動専任3名と当センターから1名の計4名の教員を現地に派遣し、松本盲学校の13名の教員



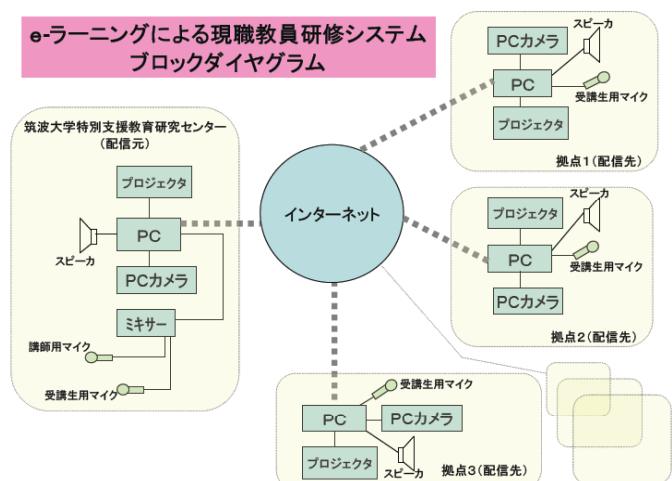
に対し、歩行指導の基礎的な理論、視覚障害児・者の誘導法や白杖の基礎操作、屋内・屋外での単独歩行などの講義や演習を行いました。また、研修期間中に同校周辺での訓練地域を選定し、カリキュラム案なども併せて提案しました。

受講者からは、「大学などで研修を受けたくても予算の問題などにより教員を出張させることができないために、このような研修会があると大変ありがたい」、「一度に沢山の教員の研修が行えることは費用対効果が高い」などの感想が寄せられました。

当センターでは、引き続き指導法などの講師派遣型研修会を継続して実施していくことを計画しています。各附属学校の先生方にもご協力をいただくことがありと思いますので、今後ともよろしくお願いいたします。

【現職教員研修事業】 テレビ会議システム

本センターでは、現職教員研修の一部をe-ラーニングで行うことを検討しています。9月からは実験的に全国のいくつかの拠点と本センターを結び、講義の配信試験を行うこととなりました。これは、インターネットのテレビ会議システムを利用して行うもので、試験を繰り返し課題を明らかにし改善方法を検討したいと考えています。このシステムは、現職教員研修の他、各地のケースカンファレンス等にも応用できると考えています。年度内には筑波大学にある5つの附属障害教育5校をテレビ会議システムで結んだ試験も行いたいと考えています。



【今年度後期の主な計画】（詳細はホームページ等にてご案内します）

第5回主催セミナー：シリーズ「特別支援教育の最前線（5）」 平成18年12月23日（土）

第6回主催セミナー：シリーズ「特別支援教育の最前線（6）」 平成19年3月26日（月）

研修生日記

「東京?! 研修?! どぉ〜〜〜しよう!!」

この4月から研修に出ることが決まるまでに、すごい修羅場があり、そのことを話すと一晩はかかるし、話のつまみも安くないし、ハンカチも1枚や2枚じゃすまないの、その話は、やめにして、たくさんの方のご支援と家族の理解あって実現した、充実した（本当に充実している）研修の様子を、そこはかとなく書き綴ってみます。

よく、「研修はどう?」と聞かれます。そういう時思わずにまゝ〜として、私の口からは「楽しい! 面白い! 刺激的! ほんま楽しい!! ほんま面白い!! すごい充実した毎日!! 帰りたくない〜。」という言葉が次々。

こっちにくる前の不安を心配しておられた人々は、あっけにとられていますが・・・。

センターでの研修は、講義・演習と附属校での実務研修があり、そのすべての場面で、その道のスペシャリストがサポートして下さいます。始めは、そのスペシャルさゆえに近寄りがたかったのですが、どの方も強烈なキャラクターをお持ちで、そういう意味でも私にとっては刺激的。空を飛べる先生、私たちの行動にじゃんじゃん火をつける先生、話すたびに話が微妙に進化すると自己分析する緻密な先生、幼稚園児を前にするとろけてしまう先生、どんなOA機器の操作にも精通していて、何でも教えてくださるのに、e-ラーニングの片付けだけは、かたくなに拒む先生、どんなケースにも飄々と核心にせまる先生、いつも穏やかに微笑みつつ、一番情熱的なハートでケース支援やセンターを包み込む先生。実務研修でいつも具体を見せ、きっちりレクチャーして下さる先生。その一人ひとりが盲・聾・養護の実践や今後の特別支援教育で私たちが果たすべき役割について具体的に指導して下さいます。必要なアドバイスはされますが、「あなたが考えていくことが大事。で、どうする?」と宿題です。久しぶりにこういう学びの時間にどっぷりつかれていることがなんて幸せなんだろうと思います。センターの研修以外にも、本学や夜間修士の講義を聴講することもでき、多くの公開講座でテーマを絞った研修も可能です。そこで出会う多くの仲間もすでに全国展開しています。たくさんの学ぶべきことと、たくさんの出会うべき人に出逢える。それがこのセンター研修の最大のうまみだと思います。残すところ私の研修期間は2ヶ月。まだまだ食べ残しがあるので、がんがん行こうと思う今日この頃です。ええ〜!? 食べ過ぎっ!? どぉ〜〜〜しよう!! 来年もう1回来てもいい? 今度は指導法で!! 予約したい!! (広島じゃけん Y.)



私がこの筑波大学の特別支援教育研究センターへ行くことが決まり、実際の勤務地（茗荷谷）が分かったのが3月の20日を過ぎてからのことだった。行くことが決まってから大慌てで住宅の手配をした事をこの前の様に思われる。当初は、手元に何も資料が無く、筑波大でコーディネーターの勉強をしてくるとだけ口頭で聞いていた。そのため、茨城県へ行くんだと思い込んでいた私は、センターのS先生との電話のやりとりで「寮のようなところはあるのか?」「車で通えるようなところか?」等のちぐはぐなやりとりをしたことを今では懐かしく思い出される。

半年間ではあったが、この東京暮らしをしてみず感じたのは、生活スタイルの違いであった。島根県、静岡県と田舎暮らしが身に付いている私にとって、移動手段が電車であることに多少慣れるに時間がかかった。地元ではドアトゥドアでの車生活を行っていた私にとって、少し歩けばすぐに網目状の線路に当たりどこからでも電車に乗れることにカルチャーショックを受けていた。そして、今では東京人と同化していると自分では思っているが・・・エスカレーターに乗る時は整然と左側に寄って並んだり、歩くスピードは人の流れに身を任せハイスピードで歩いている。半年という限られた期間であったためかホームシックになることもなく、住めば都という言葉もあるが、狭いマンションでも我が家と思い寛ぐことができていた。

ここからは真面目に語りたいが、センターに来れたことをとても感謝している。東京で講義や演習を受けることで、特別支援教育に関わる知識や技術を習うことができたばかりでなく、今まで自分が経験の中で行って来たことを深く反省させられた。それは、根拠となる考え（知識）が私にはないまま行って来たことに気づかせてくれたことだった。「そもそも」という言葉が私の中では流行語大賞として強く残っているが、根拠となるものの大切さを改めて知ることができた。これからの教職生活の中でここで得た知識や考えを忘れずにやっていこうと思っている。



(静岡ダニ〜 K)

【ご案内】

平成一八年度研修生
中間報告会・研修報告会および前期研修了式

日時 平成一八年九月二十九日

(金)

報告会一四三〇〜一七〇〇

修了式一七〇〇〜一七三〇

場所 第一会議室（E棟1階）

中間報告・センター研修生（一年コース）
高尾早苗

千葉県立香取養護学校

永井節子

市川市立養護学校

岩佐美奈子

千葉県立袖ヶ浦養護学校

小林司

秋田県立横手養護学校

成果報告・センター研修生（6ヶ月コース）

勝部悦弘

静岡県立浜名養護学校

矢野清美

広島県立廿日市養護学校

成果報告・筑波大学研究生（6ヶ月）

蛸原けい子

茨城県立龍ヶ浦養護学校

各附属校教職員の皆様で参加される方は、資料等の準備の関係がありますので、あらかじめ、センターまでご連絡ください。

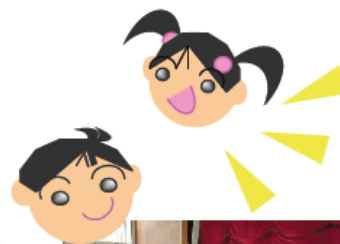
桐が丘養護学校 支援部



支援部の活動

桐が丘養護学校の支援部は、部長、各部支援部、進路、補装具担当の計7名で構成しています。桐が丘養護学校では、肢体不自由養護学校の専門性をいかした支援、医療関係と連携して行う支援を特徴としています。

今年度は、肢体不自由児の支援を中心にし、小中学校における支援モデルを作ること、盲、聾、知的障害など、それぞれの分野で開発・実践されてきた教材教具の共有を目的とした教材ライブラリーの設置を重点に活動しています。



車いす、ウォーカー、バギー

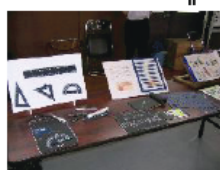


情報機器

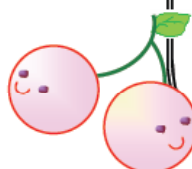
教育・福祉機器展



おもちゃ、癒しロボット



視覚支援教材



今年も8月25日に、本校体育館を会場にして教育・福祉機器展をして行いました。車椅子や歩行器、生活に便利な補助具、日常生活用品IT機器、学習に役立つ教材などの教育・福祉機器を展示し、実際に試用してみることもできるという企画です。平成16年から始まったこの企画は、今年は18社の企業の参加を得て、充実した機器展となりました。また、同時に桐が丘の教員によるIT相談（パソコンや情報教育の相談）の窓口を開設し、小中学校に在籍する肢体不自由児童・生徒への情報提供を行いました。

また今年度は、板橋区との共催研修も兼ねた企画として、北海道おしまコロニーの金沢京子先生による講演をいただき、区内の小中学校や養護学校の教員も多数参加がありました。附属盲学校、都立養護学校からの工夫された教材展示もあり、普段はなかなかできない情報や教材の共有ができる機会としてもらえたなら…と思っています。

編集後記

第2号は、拡大号として、現職教員研修生募集要項と共に全国の盲・聾・養護学校、都道府県教育委員会等に送らせていただきました。ご意見、ご感想、ご要望等、当センターまでお寄せくだされば幸いです。(M.S.)

この通信は、理想科学工業(株)のRISO-ORPHISで印刷しました。